

洪水からみなさまの暮らしを守る

あさがわけきと

号外  
厚狭川激特だより

## 「鴨橋」をライトアップします！



平成22年7月の豪雨規模の洪水による浸水被害の軽減を図るために行っている厚狭川激特事業で、現在の鴨橋を新しく架け替えることとしています。平成25年の秋には鴨橋の撤去工事に着手し、いよいよ本格的に架け替え工事に入るため、現在の鴨橋で迎える新年は最後となります。

そこで、昭和2年に架けられ、約86年間にわたり、地域の皆様に親しまれてきた鴨橋をライトアップすることとしましたのでお知らせします。

【 期 間 】平成24年12月19日(水)～28日(金)(10日間)

【 時 間 】日没から21時まで

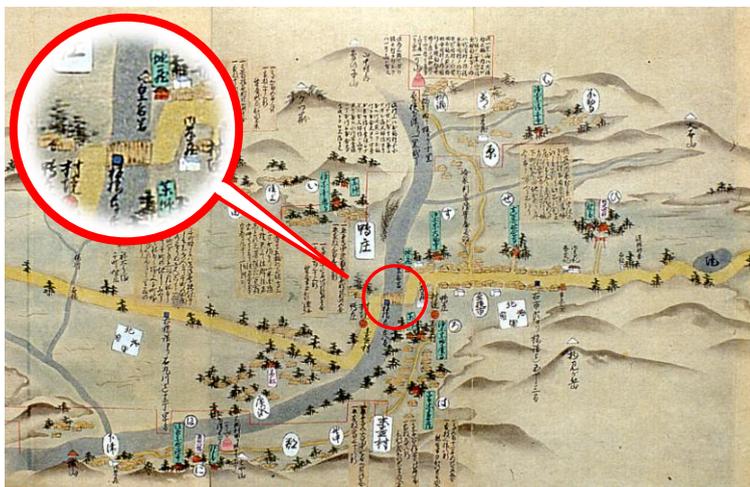
《 お問い合わせはこちらまで 》

山口県宇部土木建築事務所 〒755-0033 宇部市琴芝町1-1-50  
TEL 0836-21-7125 FAX 0836-22-5231



## 鴨橋の歴史

寛保2年(1742年)	板橋（「御国廻り御行程記絵図」より）
宝暦年(1751~1764年)	長さ28間（約50m）の板橋
天保末年(1844年)	幅6尺（1.8m）、長さ26間（約50m）の板橋 8月~1月の間だけ橋が架けられていた 2月~7月は渡し船が置かれていた
明治4年8月(1871年)	常設橋（木橋）となる 鴨神社にちなんで「鴨橋」と命名
明治37年7月(1904年)	洪水で流出 その後再建（木橋）
大正15年(1926年)	洪水で流出
昭和2年7月(1927年)	現在の鴨橋が完成



「御国廻り御行程記絵図(1742年)」より

鴨橋は、厚狭川を渡るかつての街道「山陽道」の橋です。

さまざまな文献を調べて、年代順にならべてみると、江戸時代中期にはすでに板橋が架けられていたことが分かります。

しかも、「御国廻り御行程記絵図」によると、江戸時代の山陽道の板橋は現在の鴨橋より少し下流側に架けられていたようです。その板橋は、水面の上に架けられていたため、洪水の少ない8月~1月の間だけ架けられ、それ以外の時期は渡し船が置かれていました。

その後、明治4年には、季節に関わらず渡ることでできる常設橋として、木製の橋が架けられ、鴨神社にちなんで「鴨橋」と命名されたとのことです。

しかしながら、明治37年、大正15年と、2度に渡って洪水により鴨橋が流されました。このため、昭和2年に、木製の橋に代わって現在のコンクリート製の橋が架けられ、現在に至る約86年間にわたり、鴨橋は地域の皆様の暮らしを支えてきました。

(参考文献) 「山陽町史」(山陽町教育委員会)  
「続ふるさと山陽」(重村房雄)  
「御国廻り御行程記絵図」(県文書館)



この頃の鴨橋は木橋だったようです。



昭和2年の鴨橋完成渡り初め